

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R2 入学 現6年生	国語		算数		理科
	5年時	6年時	5年時	6年時	6年時
	県	全国	県	全国	全国
	64.8	69.0	66.0	60.0	65.0
	(1.07)	(1.08)	(1.08)	(1.11)	(1.18)
R7 正答率の全国比		1.03		1.03	1.13

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和7年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査の結果から】

- ・国語科、算数科、理科の3教科において、いずれも正答率は県や全国平均を上回った。

【国語科】

- ・観点別に見ると、「思考・判断・表現」において、全国の正答率を5～10ポイント上回った。一方で、「知識・技能」において、全国の正答率をやや下回った。
- ・「目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかをみる」問題で、県や全国の正答率をやや下回り、無回答も見られるなど課題である。

【算数科】

- ・観点別に見ると、「知識・技能」において、県や全国の平均正答率を上回ったが、「思考・判断・表現」においては、全国の平均正答率をやや下回った。
- ・「数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる」問題では、誤答が多く正答率が低かった。

【理科】

- ・観点別においても、「エネルギー・粒子・生命・地球」のどの領域においても、県や全国の平均正答率を上回った。
- ・「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる」問題では、明確な区別ができていないところに課題が見られた。

【児童質問調査】

- ・「朝食を毎日食べているか」「同じくらいの時刻に寝ているか、起きているか」など、基本的な生活習慣は整っているといえる。また、「自分にはよいところがあると思う」や「友達関係に満足しているか、普段の生活の中で幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」の質問に対して、肯定的な解答が見られた。
- ・土曜日や日曜日など学校が休みの日、1日当たりの勉強量（学習塾やインターネットを活用して学ぶ時間も含む）についての質問では、「30分以上2時間より少ない時間回」と回答している児童が多く見られた。休日でも、社会体育に参加している児童が多い中、地域行事へも積極的に参加し貢献している児童も多い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・ 「授業づくりのステップ1・2・3 vol.1 & 2」に即した授業を行うとともに、DXを意識して学習端末タブレットを効果的に活用し、児童相互の考えを交流させる学習活動を仕組む。
- ・ 学習習慣の定着を図るために、「山東っ子の学習習慣」を全職員で徹底して指導する。
- ・ 自分の考えを分かりやすく伝えるために、既習の事柄や専門用語などを使って整理し、理由付けして表現する学習活動を設定し、繰り返し指導していく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・ 学校行事や集会行事、校外学習等において「感想交流」の場を設定し、児童が体験したり感じたりしたことを伝える機会を増やすことで、児童の自信につなげていく。
- ・ 「山東っ子の学習習慣」に継続して取り組み、学習の土台づくりにつなげていく。また、学習習慣調査を行い、家庭との連携を図りながら、よりよい生活習慣、学習習慣の定着を図っていく。